

「ぜい弱な階層、地域の復興支援」

関西学院大で被災地円卓会議 現状報告や今後の課題探る



被災者と有識者がそれぞれの立場から意見を交わした
—西宮市の関西学院大で

ことに伴う記念フォーラム。学会は、国内外の災害を教訓に復興をめぐる政策を多角的に研究する。

この日は、新潟県中越地震、阪神大震災、噴火した三宅島の被災者らが参加。中越地震の被災者からは「地域コミュニテ

全国の災害被災地の住民や災害に関する有識者が13日、関西学院大（西

宮市）で被災地円卓会議を開いた。「ぜい弱な階

層、ぜい弱な地域の復興支援」をテーマに現状を報告し、今後の課題を探った。

会議は08年1月に発足する「日本災害復興学会」の事務局を関学大災害復興制度研究所に設置した

イーが地震の際にも発揮された」と話し、三宅島からの参加者は「20年に1回の噴火があっても、それでも島に戻りたいという住民の思いがある」と報告した。有識者からは「災害復興制度をきちんと法整備すべきだ」など今後の課題を示す意見が出た。【生野由佳】